

2023 年度日本海洋学会秋季評議員会議事録

日時: 2023 年 9 月 25 日 (月) 17:30~19:00

場所: 京都大学吉田南 4 号館 30 号室

出席者: 江淵会長、原田副会長、相木、安藤、石井、石坂、市川、伊藤(進)、上野、植原、大島、岡(顕)、岡(英)、小川、乙坂、小埜、小畑、郭、川合(義)、神田、北出、瀬瀬、根田、齊藤、須賀、杉本、鈴木、宗林、東塚、中村、野口、野中、羽角、林、日比谷、広瀬、升本、道田、安田(一)、安中、吉川 各評議員(42 名)

池田選考委員長、大林幹事、久保川編集委員長、多田研究会会長、田所研究会会長代理、土井幹事、中野幹事、長谷川幹事、福田研究会会長、藤井選考委員長、毎日学術フォーラム(米岡)

委任状: 磯辺、伊藤(幸)、植松、梅澤、川合(美)、高橋、武田、張、西岡、森本、安田(珠)、各評議員(11 名)

開会に先立ち、中野集会担当幹事より、出席者 42 名、委任状 11 通で、評議員会細則第 3 条の規定による評議員会の成立要件を満たしている旨報告があった。

1. 会長挨拶 (江淵会長)

評議員会開催に先立ち、江淵会長より挨拶があった。久しぶりの完全対面で行われた秋季大会運営への謝意が示された。道田会員が IOC 議長に、日比谷会員が IAPSO 副会長に選出され、安藤会員が第 16 回海洋立国推進功労者表彰を受賞した件が報告され、祝意が示された。続いて、今後の一般社団法人への移行についての報告があった。

大会実行委員長挨拶 (宗林大会実行委員長)

秋季大会の大会実行委員長である宗林会員より挨拶があった。9 月 24 日時点での登録参加者は 476 名、発表件数は 265 件、懇親会 268 名であり、近年の秋季大会と比べ見劣りしない参加者と発表があったこと、久しぶりに懇親会が開催されることが述べられた。

2. 審議事項

1) 一般社団法人への移行について (江淵会長)

一般社団法人への移行のための決議案、定款案、細則案について提案され、承認された。

2) 名誉会員の推薦について (岡(顕)幹事)

名誉会員 2 名の推薦について提案され、承認された。

3) 「海の研究」投稿規定について (久保川編集委員長)

海の研究の投稿規定改定案が提案され、一部修正の上、承認された。

- 4) 海洋生物学研究会 会則について (田所会員)
海洋生物学研究会の会則改定案が提案され、承認された。
- 5) 沿岸海洋研究会 会長について (多田研究会会長)
次期会長について提案され、承認された。
- 6) 2024 年度秋季大会について (土井幹事)
2024 年度秋季大会は水産資源研究センターの会員によって行われることが提案され、承認された。

3. 報告事項

1) 会務報告

庶務 (岡(顕)幹事)

2023 年 4 月から 7 月の会員の異動状況、2023 年 4 月から 9 月のシンポジウム等の開催・共催等について報告された。

編集

①JO (齊藤編集委員長)

JO Vol.77(1)から 79(5)までの発行状況について報告された。2016 年度から 2023 年 8 月までの投稿・受理状況について報告された。投稿を促す取り組み等について報告された。

②海の研究 (久保川編集委員長)

2023 年度の投稿状況と今後の予定について報告された。

③JOS ニュースレター (岩本編集委員長)

2023 年度の発行予定について報告された。国際標準逐次刊行物番号 (ISSN) を 5 月 24 日付けで取得したことが報告された。

研究発表 (土井幹事)

2023 年度の秋季大会は完全対面形式にて開催されていることが報告され、開催セッション・シンポジウム等について報告された。

2024 年度の春季大会は JpGU2024 の中でハイブリッド形式にて開催されることが報告された。2024 年度の秋季大会は水産資源研究センターの会員により、都内の大学を会場として実施されることが報告された。

賞選考

学会賞・岡田賞・宇田賞 (石井委員長)

選考状況について報告された。

日高論文賞 奨励論文賞 (東塚委員長)

選考状況について報告された。

環境科学賞 (藤井委員長)

選考状況について報告された。

吉田賞（池田委員長）

選考状況について報告された。

選挙管理（中野(英)幹事）

各賞可否投票および賞選考委員選挙は、奨励論文賞にその年のJO論文を審議する時間を与えるために、例年より遅く1月に始めるがべ切りは変わらず1月中旬となると報告された。

広報委員会（長谷川副委員長）

2023年度の活動予定について報告された。新しい取り組みとして、JpGUブースにて海の動画、お茶及びおみくじの提供について報告された。

海洋環境委員会（野口委員長）

2023年度採択された課題が活動中であること、また随時募集の緊急提案型の公募を行っていることが報告された。

海洋観測ガイドライン編集委員会（長谷川委員長）

2022年度は和文第5版をWeb公開し、英文第5版の収集・編集したことが報告された。

西南支部（中村会員）

九州沖縄合同シンポジウムの開催を予定していることが報告された。

海洋環境問題研究会（福田研究会会長）

秋季大会で50周年日記念として本研究会主催のシンポジウムを開催したことが報告された。

沿岸海洋研究会（多田研究会会長）

2023年度日本海洋学会秋季大会期間中にシンポジウムを開催予定であること等が報告された。

海洋生物学研究会（田所会長代理）

「海洋生物シンポジウム2024」を2024年3月14から16日にハイブリッドにて開催する予定であることが報告された。

教育問題研究会（須賀前研究会会長）

2023年度は、海のサイエンスカフェ、秋季大会中のセッション及びシンポジウムの実施、大学施設を利用した海洋教育の実践、女子中高生夏の学校2023への参加、「海の出前授業」講師派遣を実施したことが報告された。その他、JOSニュースレターへの寄稿や、委員会等に出席したことが報告された。また、2023年度後期の活動計画について報告された。

研究に関する将来構想WG（岡(英)幹事）

パート2として海に興味を持つ一般向けの記事作成等の活動を行う予定であることが報告された。

2) 学会関連報告

学界動向（原田副会長）

学界関連の動向について報告された。詳細は JOS ニュースレターに掲載される。

国連海洋科学の 10 年に関する取り組み提案について（原田副会長）

「国連海洋科学の 10 年」に関する取り組み案が報告された。

水産・海洋科学研究連絡協議会（江淵会長）

6 月 16 日に協議会が行われ、ロードマップ 2023 への申請のサポートレターの支援を依頼したことが報告された。

3) その他

環境科学賞の名称変更について（江淵会長）

名称変更の検討の提案及びその後の経過等について報告があり、議論の後、引き続き幹事会で検討することとなった。

若手支援(原田副会長)

海外渡航援助 1 件(前期)、若手集会助成 3 件の報告があった。

海洋科学振興財団(原田副会長)

海外渡航援助 1 件、及び 2023 年データ同化夏の学校の開催を行ったことが報告された。

4. その他

評議委員会資料のペーパーレス化について(江淵会長)

評議委員会資料のペーパーレス化の提案があり、スクリーン投影さえあれば、議事次第のみを紙で配り、資料全体は少数のみ用意するということが承認された。

日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAPSO 小委員会について（日比谷会員）

IAPSO 小委員会について、海洋学会内にそれに相当する委員会があれば、今後特別に IUGG 分科会内に IAPSO 小委員会を作らない方向であるとの報告があった。

以上